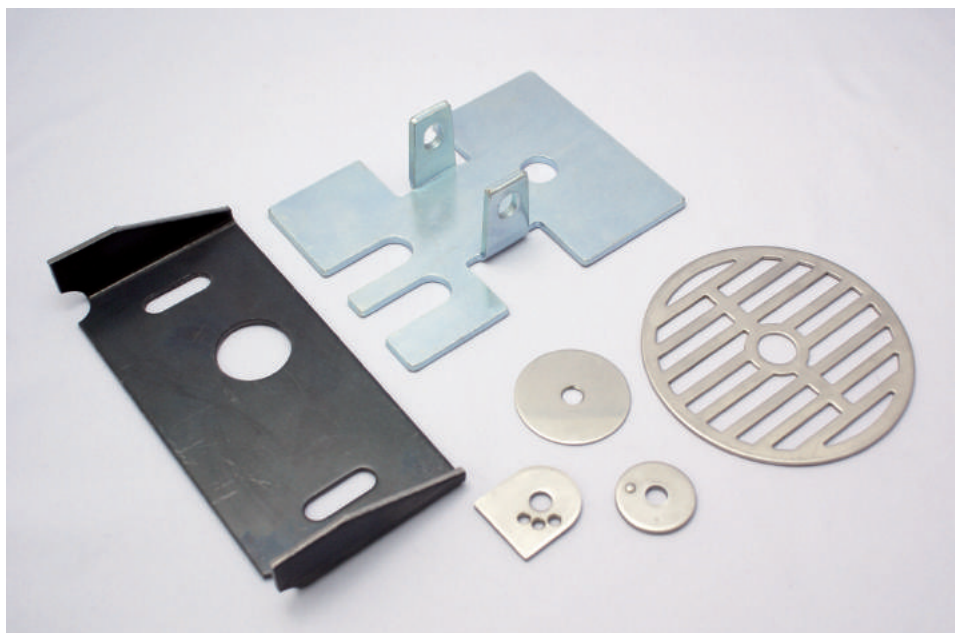


マツモラ産業株式会社

単発・順送プレス加工、 金型の実力で短納期に自信

- 納期談
- 企画力自信有
- コスト相談
- メイドインジャパン
- 試作可小ロット
- 量産対応



プレス加工による部品類

業務内容 短納期対応と 即納体制が売り物

単発プレス加工、順送プレス加工を駆使して、短納期が売り物。鉄骨関連部材メーカー向けのOEM（相手先ブランド生産）を主にし、月に約500tを出荷するうち60%が前日・当日の受注による即納仕事。段取り替え、順送ピッチを不定で送れる装置、小ロットからのロボット溶接の利用ノウハウなどで短納期を支える。

主要な生産品目は建築の鉄骨コラムをつなぐ際に使う「裏当金」と呼ぶ金具。1日平均で約1万本を生産し、全国シェアは60%。中でも、位置合わせ用の突起をつけた「つめ付裏当金」は独自の考案によるもので施工現場の作業を省力化し、看板商品となっている。

強み NCで切断を効率化、 金型はワンタッチ着脱

特定の技能者に頼ることなく、製造方法の工夫で短納期を実現している。主力の裏当金は受注ロットが数個から数百個と多様。材料の平鋼の切断工程はNC（数値制御）で寸法調整する独自の自動送り装置で、2本並列で独立して切断。曲げ加工では金型の着脱をワンタッチ式に改良し、1日に30回強の金型交換を効率よくこなす。

順送プレス加工では送りピッチを不定に制御する装置「ランダムフィーダー」を備え、異なる送りピッチの加工も、同じ順送プレスで完結させる。金型は現場から改良案が出ると「金型



ワンタッチ着脱の金型交換

会議」を開いて検討。採用された案については報奨金を出すケースもある。

第2創業 全社員で改革を議論、 若手の意欲向上

第2創業の思いを込めて、業務改革をスタートさせた。平成25年3月から社内4グループで経営理念などを議論。平成26年3月に全社プレゼンテーション大会を開き、同年6月に新たな経営理念と行動規範をまとめた。木村欣祐社長は「経験でやってきた仕事のやり方から、組織的にみんなで運営していく形にして、次の発展に進めたい」と話す。

社内組織は業務部、製造部、営業部、技術開発部、総務部の5部門制とし、若手グループ長の登用や、従来の朝礼に加え、週1回パート社員も参加する昼礼を始めた。

今後の展望 金型の外販、ODM、 新卒の定期採用も

新事業として金型の外販を検討している。金型市場は成熟しているが、実際は機能優先の仕様が目立ち、使い手側の使い勝手に配慮された金型が少なくと分析。金型の改善活動に取り組んできたノウハウを生かすことで有望な市場と見る。新設した営業組織をテコに、金型の外販をはじめ、現在のOEMから今後は設計・デザインを含めたODM（受託企業のブランド製品企画・生産）を視野に入れ、新規顧客の拡大を目指す。

また平成29年春から高卒の定期採用を始める計画で、段階的に大卒者の採用にも取り組む。全員参加型の運営をテコにするのも目標に掲げる。

大阪 27

COMPANY PROFILE マツモラ産業株式会社

当社の歴史

現会長の松茂良 興治（まつもら こうじ）がガラス建材の販売で創業し、昭和50年に金属プレス加工に参入しました。鉄骨関連資材メーカーのOEM（相手先ブランド生産）をはじめ、商品開発、特許取得などでも実績を積み上げてきました。平成9年には埼玉県内に関東の製造拠点を開設。金属プレス加工業から金属加工業へと進化し、高度な技術に挑戦を続けています。

「改革の基本精神7か条」を掲げて、あきらめずに挑戦し続ける姿勢を大事にしています。

取締役社長 木村 欣祐 さん



■主な事業内容
金属プレス加工を中心とする金属加工業

■主な取引先（納入先）
建築金物メーカー、太陽光発電設備メーカー、電材関連メーカー、車輛設備メーカー

住所 / 〒581-0843
八尾市福万寺町南6-1-3
TEL / 072-922-7870
FAX / 072-922-9653
創業 / 昭和36年11月
設立 / 昭和50年4月
資本金 / 4,000万円
従業員 / 33名

<http://www.matsumora.co.jp/>